



人になれ 奉仕せよ

これは、関東学院の校訓であり、初代院長 坂田祐が第1期生の入学式で述べた言葉です。
キリスト教の精神にもとづき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、
人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く、というこの関東学院の教育方針は、
長年にわたって継承されてきました。

一貫連携教育

関東学院は、2つのこども園、2つの小学校、2つの中学校高等学校、そして大学を擁する総合学園です。園児・児童・生徒・学生の総数は約1万5千名に達し、それぞれの段階において、年齢や学力に応じた教育目標を定め、各人の可能性を伸ばすことを目指しています。学院長を議長に、学院各校の学校長により構成される校長会議および学院宗教主任会議を定期的に開催し、一貫教育とキリスト教教育を審議し、創立記念行事、クリスマス行事、教員合同研修会など、総合学園としての特色を発揮できる行事を通して、こども園から大学までの連携を推進し、一貫連携教育体制の充実を図っています。



関東学院のびのびのば園



関東学院六浦こども園



関東学院小学校



関東学院六浦小学校



関東学院中学校高等学校



関東学院六浦中学校・高等学校



関東学院大学

関東学院 理事長メッセージ

学院全体の方向性を示すために、「グランドデザイン」を制定。



関東学院 理事長
規矩 大義

伝統ある横浜の私立学校として、私たちが社会に果たすべき最も大きな役割とは、キリスト教の精神に基づいて豊かな人間性を培い、これからの新しい時代を担う「人と社会に貢献する若者」を育て、輩出し続けることです。私たちが大切にしている「人になれ 奉仕せよ」という校訓には、いつの日か人と社会に貢献できる人材になるために、聖書をはじめ、さまざまな書に触れ、学び、努力し続けなさい、という意味が込められています。そのためには、質の高い教育を通して知識や技術を修得することは勿論のこと、幅広い教養を持ち、慈愛に満ちた、個性豊かで知性溢れる若者を育てていくことに全力を尽くしていきます。関東学院に連なる、2つのこども園、2つの小学校、2つの中学高等学校、そして大学・大学院が、共通の理念を共有しつつも、それぞれに個性を際立たせ、特色ある教育を実践し、学院内外で切磋琢磨することで、学院各校が更なる発展を遂げ、それによって子どもたち、若者たちの成長を大きく促していきます。関東学院で学ぶ約15,000名の園児、児童、生徒、学生たちが、大きく成長してゆくことを自ら実感し、この学院で学べて良かったと心から思える環境を教職員一丸となって作り上げていきたいと考えています。

関東学院 学院長メッセージ

関東学院の全ての人に「人になれ 奉仕せよ」は息づいています。



関東学院 学院長
松田 和憲

関東学院は、1884年に横浜バプテスト神学校として創立されて以来、キリスト教の精神に基づく教育を行っています。1919年に設立された中学関東学院の第1回入学式で、初代院長の坂田祐は「人になれ 奉仕せよ」の言葉を生徒たちに贈りました。その後、この言葉は関東学院の校訓となり、大正から令和まで長きにわたって、関東学院の教育を方向づける「道しるべ」として大きな役割を果たしてきました。「人になれ 奉仕せよ」を理解するために、一つの正解はありません。一人ひとりがその意味を考えながら生き、それぞれの答えを探し続けることが肝要です。私たちが目指す教育は、現代社会において各自が自立し、他者に貢献できる人間を育てることに重きをおいています。知識や技術の修得にとどまることなく、総合的な人間力を身につける、それが関東学院の学びの特色です。また、総合学園の総合力を生かしながら、園児から学生、教職員に至るまで、豊かで多彩な交流・学びの場を提供しています。関東学院で学んだすべての人たちが、社会に貢献しつつ、他者に仕える人材として、校訓を大切にしながら実り多い人生を歩んでいってくれることを願っています。

関東学院のびのびのば園

■ 保育理念

キリスト教の精神を柱に、自分が神様から愛されているかけがえのない存在である事を知り、自分と周りにいる友だちのありのままを認め合い、大切にしながら生活づくりをしていきます。



■ 特色

- やってみよう**

自分でやってみようとする主体的な気持ちを大切に、あそびを中心とした活動の中で、子どもが自立していく過程に寄り添います。
- 表現しよう**

友だちとの生活やあそび、また対話を通して、様々な事象や環境に興味を持ち、考えながら工夫して表現する楽しさを広げます。
- 大切にしよう**

自分の気持ちや考えを大切に、友だちとの関わりを深める中でお互いの違いを認め合い、思いやる心を育てます。

仲程 剛 園長

関東学院のびのびのば園では、子どもたちが、自分も友だちも神様に愛されているかけがえのない存在であるということを実感してほしいと願っています。あそびを通して主体的に学びながら、子どもたち一人ひとりの「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を育む保育を目指しています。



関東学院小学校

■ 教育理念

校 訓	「人になれ 奉仕せよ」
教育目標	「人になれ 奉仕せよ」を体現する子」を育てる。 「夢を実現する学力」を身につけた子」を育てる。 「自分で考え、判断し、行動しようとする子」を育てる。



■ 特色

- 本に親しむ**

朝読書、おはなし会、ブックフェア、関東学院小学校の100冊など本に親しむ読書活動を幅広く行っています。ビブリオバトルには教員も参加しています。
- ICT教育**

iPadや電子黒板、デジタル教科書等を活用したICT教育を行っています。ICT機器を表現のツールとして用い、プレゼンテーション力の育成にも取り組んでいます。
- 総合的な学力形成**

独自のカリキュラムにより、授業、テスト、補習・講習と家庭学習を連動させ、学びの基礎となる力や生活習慣を育てながら、総合的な学力形成を目指しています。
- 社会のしくみを学ぶ**

卒業生や横浜市や神奈川県など地域とのつながりを生かした出前授業・校外学習を行っており、ときにはスペシャルゲストをお招きした授業もあります。
- 奉仕活動の実践**

SG(サービスグループ)の活動：草創期よりSGと呼ばれる組織があり「一日奉仕活動を進んで行う」という活動を毎日行っています。活動を通して子どもたちは、自分のことだけではなく、みんなのためになることを自分で見つけ、力を尽くす喜びを覚えます。惜しみなく積極的に奉仕するという心を育みます。

岡崎 一実 校長

関東学院小学校はキリスト教にもとづく人間教育を理念とし、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと3つの教育目標にむかってあゆんでいる「夢を育む学校」です—この一文に込められた小学校の姿が、礼拝堂をつつみ祈りと賛美の歌声に、教室にあふれる学びの熱意に表れ、子どもたちの笑顔とそれを見守る教職員にも示されています。特色ある教育プログラムと豊かな教育環境の中で夢に向かって21世紀を生きていく子どもたちを育みたいと願っています。



関東学院六浦こども園

■ 保育理念

神様に創られた大切な一人として愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。



■ 特色

- 大学との連携**

日常的にボランティアで、教育実習生（関東学院大学教育学部・栄養学部・看護学部）が1クラス1～2名参加。関東学院大学教育学部の蔵書の貸し出しや、学生による読み聞かせの会も行なっています。
- 研究実践発表の場**

大学教員の研究協力とゼミの研究実践・発表等を受け入れています。
- アートによる教育・保育**

1・2階にアトリエを設け、アート講師が子どもたちの豊かな表現を支えます。子どもたちは感じて考えて表すことを主体的に行っています。
- 英語で遊ぼう**

年中・長クラスは英語で讃美歌を歌ったり、絵本を見たり、簡単なやりとりやゲームを楽しんでいます。多様な文化に楽しみながら触れていくよい機会となっています。

鈴木 直江 園長

関東学院六浦こども園では、キリスト教保育を土台に子どもたちのありのままの姿を受けとめ、一人ひとりの自分づくりをサポートしていきます。失敗もそこから学び立ち上がるしなやかな力をつける大切な経験です。自他共に認め合い尊重する心を育む経験を園生活でたくさんしてほしいと願っています。



関東学院六浦小学校

■ 教育理念

校 訓	「人になれ 奉仕せよ」
教育目標	「喜びを分かち合う」 社会に未来に貢献できる、 豊かな心と学力の基礎を育む。



■ 特色

- 学びは、平和を愛しその喜びを分かち合うためのもの。大きく変わってゆく未来社会に対して、個人として必要な力と共同する心と力を育む、創造的で主体的な学習活動を展開しています。

- 創造的学習**

基礎的な学ぶ力を養うため、確かな日本語力の育成を目指す授業をベースに、児童自らがテーマを決定する探究課題型の授業と児童が習熟度を意識して自ら選んで参加する選択型授業や複線型授業を展開しています。「六浦小モデル」としての取り組みも、今年度からICT化でさらに深化します。
- 体験学習**

近郊の自然環境を生かした体験学習や郊外の大自然の中で宿泊学習を行う自然学校を1年生から行い、自然の中にある神様の豊かな恵みを実感し、感謝する心を育み、体験を振り返り、学習化することで、友達との豊かな人間関係を形成していきます。
- 全学年での交流**

児童会・児童委員会の活動や学年の縦割り交流を通して主体性と自主性を育てています。各種の全国大会や神奈川県私立小学校の様々な大会に積極的に参加しています。
- 英語学習**

目と耳による刺激を効果的に言語習得の活動に関連させ、行動を表す実際の音声を中心に英語を学んでいます。「分からないから嫌になる」ということがないような配慮で、次第に観念的な表現も理解し習得していきます。こうした学び方は六浦中学での英語学習にも引き継がれています。
- 国際理解**

「タイ訪問団」として、希望する児童・保護者と本校教員がタイのカレン族の村を訪れ、村の寮で寝食を共にする心と物の交流プログラムを10年以上続けて実施しています。

黒畑 勝男 校長

変化のおおよその流れは分かっても、働き方、暮らし方、社会のあり方がどれだけ変わるのか想像ができな未来の社会。人口減少で国内のグローバル化が随所に進むでしょう。商業や流通、サービスの変化で、街並みまでもが大きく変わってしまうかもしれません。児童が社会に出るのは15年後です。その時代に生きる力を育てるのが教育の役割なら、小学校は、定形的な学びでの習得の度合いを測ることに主眼をおく教育を再考すべきでしょう。小学校の役割は、自ら考える力、選ぶ力、進む力の「素」を育むこと。六浦は、「のびる」を伸ばす小学校を目指します。





教育理念

「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、建学の精神である聖書の教えを体現する使命感を育むことを目的に、礼拝と聖書の授業を行います。同時に、多文化共生社会に貢献する人となるための学びの場を得ることを目的に、教科学習とポートフォリオづくりの進学準備教育を行います。



特色

キリスト教教育

アメリカ・バプテスト派宣教師が設立した神学校が源流です。プロテスタントの信仰のもと、この三春台の丘で100年にわたる教育活動を展開しています。

グローバル社会に対応

優れた国際感覚とコミュニケーション能力、科学に対する洞察力は、グローバル社会では必須の能力となります。対面型の語学指導や体験型の海外研修、科学の本質を体得する理科の実験を用意しています。

確かな学力と向上心

実社会で活躍するために必要な学力と能力を身につけるために、国内外を問わず高等教育機関で学ぶことが求められます。正課だけでなく課外活動にも、進学を可能にする様々な取り組みがあります。

大会やコンクール参加

国内だけでなく国際的な大会やコンクールに参加・出場する生徒を応援します。多くの方々に評価される生徒のパフォーマンスを広く世間に伝えていきたいと考えています。

森田 祐二 校長

関東学院中学校高等学校は、キリスト教の精神に基づき異文化を理解し、多様性を受容できる人材の育成を目指しています。教育ビジョン「Olive Stream」のもと、生徒の経験値を高める教養講座やエンジニアリングにアートを加えた学びを重視しています。また通常の英語の授業に加えてベルリッツと連携した授業でコミュニケーション能力を養い、グローバル社会で活躍できる素養を身につけます。



教育理念

キリストの教えに立つ校訓の「人になれ 奉仕せよ」を掲げ、聖書にもとづき、「ともに励まし合う人」「社会に奉仕する人」「平和を尊重する人」を育てる教育を目指しています。



特色

キリスト教教育

一人ひとりが神によって使命を与えられた大切な人であると常に語られています。誰もが弱さを持っていることを知らされます。「自分を愛するように隣人を愛する」ことの大切さの学びとして、数々のボランティア・プログラムにもキリスト教教育が具体化して展開されています。

英語教育

英語は教科ではなく、生きる力です。中学では特に初期学習として大切な、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能をバランスよく育成します。KGMメソッドとして、ICT環境を駆使した CLIL (Content and Language Integrated Learning) を取り入れた授業方法と教材で展開しています。

グローバル人材育成カリキュラム

日ごろの学びや活動、興味・関心に関連する研修プログラムを、成熟度や適性、興味関心によって学齢を超えて選べるように、国外では7カ国、13コースを用意しています。

黒畑 勝男 校長

関東学院六浦中学校・高等学校は、2014年度よりグローバル化・ボーダーレス化の進む社会でたくましく生きるための力を育てる教育を推進しています。大切にしているのは、確かな基礎学力の確立と「気づき」と「経験」による動機づけの教育です。中学校の総合学習の学校設定科目「地球市民」で、現代の世界の文化や現状、社会の課題などをアクティブ・ラーニング的な手法で学びます。感性が柔軟な若いうちに、興味や成熟度に合わせた実学的な体験ができる多彩な研修に参加できます。10、20年後を見据え、学びを支えるコミュニケーション・ツールとしての英語力を最新の教授法で習得していきます。





教育理念

関東学院大学の建学の精神は、キリスト教の精神にあります。これは、キリスト教の精神（創造主への畏敬、無償の愛、対等な尊厳を有する存在としての他者の受容）にもとづき、地球上の多様な生命への慈しみと敬虔、森羅万象に対する寛容と慈愛、それらの徳目を基本とした姿勢のもとで、他者を理解し共感することを可能とするための広く深い教養を修得し、他者のために行動できる奉仕の精神を涵養することを意味します。さらに、キリスト教の視点を通した西洋文明や文化の理解と敬意を、

日本の伝統や文化の理解と敬意によって複眼的視点から統合させます。多言語、多文化、多宗教、多人種といった中での自己の確立と共生のための教養を身につけ、この教養を礎に、人のため、社会のため、ひいては世界人類のための思考と行動とを循環させる営為を通して、次世代の社会を他者と共に創り上げる知識と智慧と行動する力を習得し鍛錬することを目指します。

小山 巖也 学長

関東学院大学は、キリスト教の精神に基づき、生涯にわたり教養を身につけ人格を陶冶し、周囲の人々と力を合わせながら、人のため、社会のために貢献できる人材の育成に努めています。そして「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、大学が企業や自治体、地域と深く関わり合い、社会課題の発見と解決に取り組む社会連携教育を推進しています。大学は最先端の知が集まる最高学府です。私たち研究者には、最先端で獲得した知を社会に還元し、人々の「知りたい」という知的な

欲求を満たす使命があります。さらに、研究を通じて培った「知」や「理論」と、社会連携教育による「実践」によって、これからの社会で活躍できる人材育成に取り組んでいます。横浜、神奈川における知の担い手として、これからの社会課題を解決する新しいプロジェクトを生み出す仕掛けをつくり、地域社会の持続的な発展に貢献したいと考えています。



特色

宗教教育

横浜山手に1884年創設された横浜バプテスト神学校を第一の源流とする歴史と伝統のある大学です。キリスト教を建学の精神とする関東学院大学には、坂田祐（関東学院初代院長）の説いた校訓「人になれ 奉仕せよ」が受け継がれています。それは、「キリストの教訓をもって人たるの人格を磨き、キリストの愛の精神をもって奉仕すること」を意味しています。宗教教育

センターは、キリスト教教育ならびにキリスト教活動を行っています。礼拝やチャペルコンサートへの参加、チャプレン（キリスト教教育と活動に関わる宗教主任、宗教主事）との交わりなどから、学生のキャンパスライフがより豊かな、充実したものになるよう願っています。

キャリア教育

自分の将来や生き方を知るために「KGUキャリアデザイン入門」を始めとした体系的なキャリア教育プログラムを1年次より正課教育として用意しています。このプログラムの中では、自分自身を知ることや、ゲストとして招いた卒業生の体験談を聞くことで、将来の進路に対する意識を高めます。また、希望する進路の実現に向けて、1年次から総合的なサポートを実施していきます。特に3年次からは、就職活動に必要な力を身につけるための就職支援プログラムを実施します。就職活動

全体の概要を知るための「就職ガイダンス」や、企業の選び方や情報収集の仕方を学ぶための「各種講座」、実社会での就業を体験する「インターンシップ制度」、そして各企業の人事担当者を招いた「学内合同企業説明会」を用意しています。また、個別の就職相談では、履歴書やエントリーシートの書き方、さらには模擬面接など、一人ひとりの学生に合わせた支援を実施しています。

社会連携教育

自治体や企業、地域と連携しながら実践的な教育を実施しています。社会に実際に存在する様々な問題に対峙し、自治体や企業をはじめ多様な人々とコミュニケーションをとりながら問題の解決に取り組むことで、社会に出て即戦力として役立つ能力を養成しています。



ICT教育

新しい時代に対応した情報設備や教育カリキュラムの整備を進めています。情報社会に求められる時代のニーズに答えるべく、教育・研究におけるICT活用を推進し、高度で広範囲であるとともに、ユーザビリティの高い情報処理環境の充実に取り組んでいます。また、学修や研究に必要なICT活用能力を身につけられるよう、さらに卒業後に社会人として必要な情報リテラシーを身につけられるよう、様々な指導を行っています。



神奈川を学ぶ

地域との連携を強化するとともに、各学部で地域、企業、自治体などとの連携による社会をフィールドとした学びの充実に取り組んでいます。実践的な学びを進める上で、「地域」を知り、学びのフィールドとなる神奈川県の特徴を理解するため、全学共通科目として「KGUかながわ学」を10科目開講しています。地域企業や自治体、地元プロスポーツ選手など、各分野の専門家や実務家を講師に招いた「現場」の視点を重視した科目群から、自分の興味・関心、専門分野に合わせて学ぶことができます。



学びの広がり

総合大学のメリットを生かし、興味のあることを学部の枠を超えて学ぶことができる「他学部受講制度」や、他学部の科目を体系的に学ぶことができる「副専攻制度」があります。また、横浜市内の国公私立11大学と協定を結んでおり、各大学の授業科目を履修・単位互換をすることができます。

学部・学科構成研究機関

学部学科			大学院	研究所
国際文化学部	理工学部	建築・環境学部	文学研究科	キリスト教と文化研究所
●英語文化学科	●生命科学コース	●建築・環境学科	経済学研究科	大沢記念建築設備工学研究所
●比較文化学科	●数理・物理コース	人間共生学部	法学研究科	材料・表面工学研究所
社会学部	●応用化学コース	●コミュニケーション学科	工学研究科	防災・減災・復興学研究所
●現代社会学科	●表面工学コース ※1	●共生デザイン学科	看護学研究科	プロジェクト研究所
法学部	●健康科学・テクノロジーコース ※2	教育学部		人文科学研究所
●法学科	●先進機械コース	●こども発達学科		経済経営研究所
●地域創生学科	●電気・電子コース	栄養学部		法学研究所
経済学部	●情報ネット・メディアコース	●管理栄養学科		地域創生実践研究所
●経済学科	●土木・都市防災コース	看護学部		工学総合研究所
経営学部		●看護学科		人間環境研究所
●経営学科				看護学研究所

※1 2023年4月開設予定 ※2 2023年4月 健康・スポーツ計画コースから改組予定



関東学院大学
1884年 創立

留学関係

留学・語学研修者数

2020年度	- 0人
2021年度	- 10人

留学

2020年度	0人
2021年度	0人

語学研修

2020年度	0人
2021年度	10人

受入れ留学生数

12カ国 231人

留学先国数

11カ国 21大学

学部 10,790人

大学院 172人

科目等履修生 25人

修士号取得者数 50人

博士号取得者数 3人

学士号取得者数 2,365人

職員数 288人

教員数 1,010人
(専任、助手、非常勤講師)

外国人教員数 82人
(大学院非常勤含)

博士号取得教員数 187人
(大学院含)

同窓会会員数

127,953人

図書館

蔵書 1,493,878冊

入館者数
2020年度 - 47,345人
2021年度 - 136,716人

貸出冊数
2020年度 - 13,393冊
2021年度 - 27,786冊

大学内パソコン設置数 1,551台

社会連携関係

公開講座数 / 受講者数
2020年度 9講座 31人
2021年度 39講座 611人

※2020年度実績

特許権実施等件数 893件
(私立大学1位/全国6位
外国分含む)

知的財産権等収入額 108,870,000円
(私立大学1位/全国10位)

産官学連携事業件数

2020年度 45件 2021年度 66件

※社会連携センター実施件数

就職関係

求人件数 16,926件
(2022年3月卒業生対象)

就職率 94.2%

職種別就職者数

就職者数(学部) 1,884人

- 営業職・企画職 427人
- 事務職 54人
- 販売職・接客職 200人
- 総合職(事務系) 254人
- 総合職(技術系) 92人
- 技術職 254人
- SE職・PG職 113人
- 福祉職(公務員) 2人
- 福祉職(民間) 59人
- 国家公務員行政職 1人
- 国家公務員技術職 1人
- 地方公務員行政職 11人
- 地方公務員警察官 20人
- 地方公務員消防官 7人

- 地方公務員技術職 8人
- 自衛官 10人
- 中学・高等学校教諭 5人
- 小学校教諭 31人
- 幼稚園教諭(民間) 11人
- その他教諭 9人
- 保育士(公務員) 5人
- 保育士(民間) 34人
- 管理栄養士(公務員) 1人
- 管理栄養士(民間) 39人
- 栄養士(公務員) 1人
- 栄養士(民間) 9人
- 看護師 75人
- 指導員 15人
- 研究職 8人
- その他専門職 11人
- その他職種 75人
- 職種未定(就職後に配属先決定) 40人

就職支援行事実施件数 142件

学内合同企業説明会 参加企業数 350社

就職・キャリア 個別相談件数 7,600件

その他

事業活動収入 21,094,009,575円

科学研究費採択状況 100,646,000円

面積
建物設備

面積合計

- 金沢八景 - 87,827㎡
- 金沢文庫 - 150,963㎡
- 小田原 - 121,778㎡
- 関内 - 2,648㎡

附属研究所及び施設 12

関東学院
中学校高等学校

関東学院六浦
中学校・高等学校

入学者数(中学校+高校) 263人 在籍者数 1,535人 卒業生数 累計 23,750人

地域別生徒数 (上位3地域まで)
横浜市神奈川区 140人 横浜市中区 109人 横浜南区 105人 横浜市港北区 105人

部活動成績

ハンドベル部 (O.C.C.)
全国大会 42回出場 世界大会 9回出場

少林寺拳法部
全国大会 11回出場 世界大会 1回出場

マーチングバンド部
全国大会 32回出場

面積 43,534 m²

入学者数(中学校+高校) 228人 在籍者数 994人 卒業生数 累計 14,122人

国際交流人数 2020年度 2人 2021年度 10人 受け入れ 2020年度 0人 2021年度 7人
地域別生徒数 (上位3地域まで)
横浜市金沢区 150人 横浜青葉区 110人 横浜南区 72人

部活動成績 (2012年度～2021年度)

高校男子ラグビー部
ブロック優勝 1回 準優勝 2回
関東大会
高校女子ラグビー部
優勝 1回 準優勝 4回
全国大会
サニックスワールドユース 世界第3位
日本代表 2名

中学男子ラグビー部
優勝 2回 準優勝 2回
関東大会
東日本大会 5回出場
高校弓道部
優勝 1回
関東大会
全国大会 2回出場
東日本大会 1回出場

中学弓道部
優勝 6回
関東大会
全国大会 2回出場
中学卓球部
優勝 2回
関東大会
全国大会 1回出場

鉄道研究部
最優秀賞 3回 特別賞 2回
全国高等学校鉄道模型コンテスト
吹奏楽部
東関東吹奏楽コンクール・高等学校B部門 銀賞
ヨーロッパアン・スケール・コンベンション 3位

面積 30,845 m²

関東学院小学校

関東学院
六浦小学校

関東学院
六浦こども園

関東学院
のびのびのば園

入学者数 74人 在籍者数 435人 卒業生数 累計 4,399人

面積 4,413 m²

入学者数 52人 在籍者数 252人 卒業生数 累計 5,260人

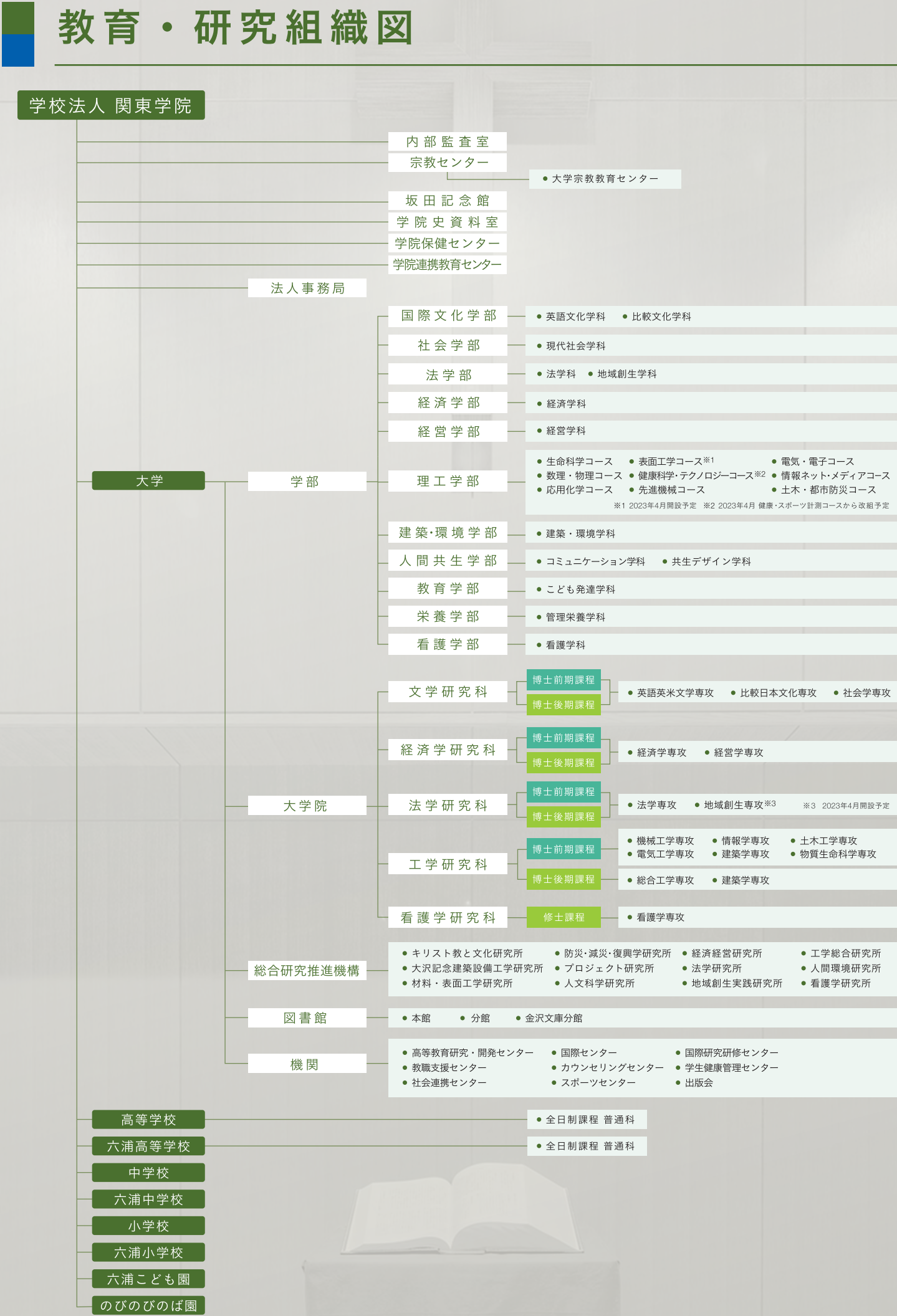
面積 9,392 m²

入学者数 78人 在籍者数 260人 卒業生数 累計 5,461人
(前身の幼稚園を含む)

面積 3,490 m²

入学者数 46人 在籍者数 156人 卒業生数 累計 4,322人
(前身の幼稚園を含む)

面積 3,092 m²





KANTO GAKUIN LOGO

ロゴマーク紹介

関東学院のロゴマークは、学院を象徴する色であるオリーブグリーンを基調としながら、創立の地である横浜・神奈川の海をイメージしたブルーを組み合わせたデザインです。下段には波をかたどった文様を配置。そして、7枚のオリーブの葉は、こども園、小学校、中学校、高等学校、大学までの全7校を表しています。

制作にあたり、最も重視したコンセプトは「世代を超えて愛されるシンボル」であることです。創立150周年を迎える2034年、そしてその先もずっと、関東学院が標榜するキリスト教教育の普遍的な価値が変わることなく、受け継がれていってほしい。それが学校法人関東学院としての、一つのミッションだからです。そのためにも幅広い世代に愛されていくものにしたいと考えました。子どもたちや学生が社会に出て、このマークを見た時、学院で培った精神的なバックボーンを思い出してくれたなら、それが私たちの教育の最大の成果と言えるでしょう。

関東学院 常務理事 望月 正光



JR 関内駅前にキャンパスを新設。 横浜の街全体がキャンパスに。

関東学院大学は、2023 年 4 月、JR 関内駅近くの横浜市教育文化センター跡地に、横浜・関内キャンパスを新設します。

新キャンパスは、地上17階、地下2階からなる都市型高層キャンパス。教育施設としての機能に留まらず、市民にも開放するデジタル図書館やブックカフェ、コワーキングスペース、マッチングオフィスなどを設け、学生と市民、企業人など国内外の多様な主体が集う拠点を創出し、「知の交流」を促します。

新キャンパスでは、法学部、経営学部、人間共生学部コミュニケーション学科が教育・研究を展開。学生は自身の専門分野をいかして、実社会の中で課題を発見し、失敗を重ねながら解決策を探ることにチャレンジします。新キャンパスを拠点に、地域、企業、自治体などと連携し、横浜の街全体をキャンパスとした「社会連携教育」を、更に推進していきます。

— 14 —